

第5回教育支援コーディネーター・フォーラム(報告④)

第2部 テーマ別分科会 (13時30分から16時30分)

□ 分科会Ⅰ「大会議場でワールドカフェ～地域・社会資源と学校支援～」□ 【大会議場】

分科会Ⅰでは、「ワールドカフェ」というワークショップの手法で、学校支援に関わっている方々、約120名が参加し交流を深めました。

大会議場に用意されたのは、カフェのような丸テーブルです。各テーブルに企業・NPO、コーディネーター、行政関係者の、異なる立場の4人が丸テーブルを囲んで、ワールドカフェが始まりました。

(1) ワールドカフェの説明



「今日はさまざまな立場の人が集まっています。午前中には、企業や団体のプログラムなど一度にたくさん知ることができました。午後は、立場の違う人たちと『会話』をしてみましょう」

「カフェにいるようなリラックスした気分で話し合うことで、自分の活動について整理ができる、つながりが生まれる、新しい発想を得ることができる、それが“ワールドカフェ”です」

(2) ワールドカフェの様子



3回に分けてテーマが出されます。そのテーマに集中しながら、“議論”ではなく“対話”をしながら、丸テーブルの上の模造紙に全員がマーカーを持って発言を次々書いていきます。口も手も頭も動かします。次第に和んで、あちこちから笑い声が聞こえました。ひとつのテーマで約30分対話したあと、4人のうち一人を残して席替えします。最後のテーマは「コーディネーターの役割」でした。



(3) 振り返り



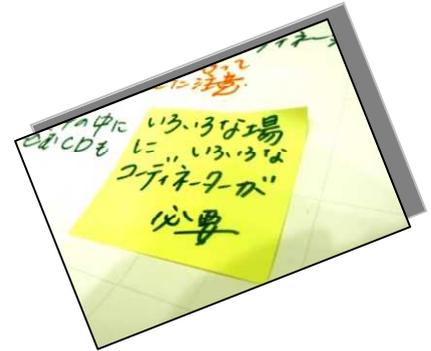
「多様な方々と対話でき、とても刺激になった」との感想が参加者の多くから聞かれました。「いいことばかりじゃないがまず一歩を」「パートナーシップが大切」「答えのない中、大人が楽しく、また悩む姿を見せながら」など、素敵なコメントをいただき、ひと時のカフェは終了しました。



〔第二部分科会Ⅰの感想〕

企業

- ・色々な立場からの発言に興味深く聞けました。コーディネーターさんへの広報、あるいはコーディネーターさんとの情報交換の必要性を感じました。
- ・コーディネーターさんと関わる機会があまりないので、本心や悩みなどを知ることができた。愚痴るのではなく、みんなで熱く本気でお話できたことが印象的でした。
- ・色々な分野の人が集まったが、結局行きつくところは一緒だった。そういう人たちが協力し合えばもっとできることがあると思った。
- ・学校や教育コーディネーターのことなど、あまりよく知らなかったので勉強になりました。



コーディネーター

- ・10人の全く初めての方とお話できて、企業なりの意見を聞いたことに意義があった。いろんな立場、いろんな価値観の方が学校や子どもにかかわって、子どもの育ちのためにひと肌ぬいってくれることで、地域や社会が変わってくれるといいと思う。
- ・教育のみならず自分を見直す良いきっかけになり良かったです。
- ・企業の方と直接お話しできる機会がなかなかないため、大変貴重な経験となりました。
- ・企業の人からコーディネーターの役割を聞き、学校側が何を求めているのか、企業は子どもたちに何を話していくかをまとめる役にならなくては。
- ・「ワールドカフェ」初体験でしたが、様々な所属の方とお話ができ、お互いの考えを理解できたかと思います。30分での席替えがあつという間に感じられ、1テーブル4名という人数も、確実に話せてよかったと思います。更に「書く」という作業により、たがいにポイントを再確認し合え、より頭に残ったような気がします。

教育行政関係者

- ・様々な立場の方と「子どもの学びのために～」ということをテーマに話し合うことができ、新しい気づきをたくさんいただけました。
- ・他区市のコーディネーター、NPO、企業の方など、普段あまり接する機会の無かった方とお話することができ、教育支援について改めて考えることができた。